

第144回 関西大学メディア懇談会 実施概要

1 日時 2022年12月1日(木) 15:00～17:00

2 場所 梅田キャンパス8階ホールおよびオンライン (Zoom ウェビナー)

3 内容

(1) 研究発表 (15:05～15:25) ※20分×1名

発表者: 永富 真梨 (社会学部助教)

別紙1

テーマ: 日本の男らしさは黒人音楽によって構築された!?

～90年代のサブカルチャーマガジンにおける言説を手がかりに～

(2) 学内状況の説明 (15:25～16:25)

① 「2025 大阪・関西万博」に向けた本学の取り組み

P1～

～本学が推進する事業企画が大阪ヘルスケアパビリオンでのリボンチャレンジに認定

② 「地域で活動する若い力奨励賞」プレゼンテーション審査会を開催

P3

③ 関大×法大連携 SDGs アクションプランコンテストを開催

P4

④ OSAKA FLOWER CARPET に参画! 関大生が生花絵アートで「太陽の塔」芝生広場を彩る

P5～

⑤ 廃棄食糧などを有効活用! 学生への SDGs 年末ギフト企画

P7

⑥ 学生・教員アンケートからみえたコロナ禍の学びの実態 (教学 IR プロジェクト)

別紙2

(その他資料)

・第27回「関西大学先端科学技術シンポジウム」開催チラシ

別紙3-1

・「学生相談・支援センター開設10周年記念シンポジウム」開催チラシ

別紙3-2

・関西大学ニューズレター『Reed』第70号

会場置き配付

・『関西大学通信』vol.501、502

会場置き配付

・関西大学校友会機関誌『関大』第632号

会場置き配付

(3) 意見交換・質疑応答 (16:25～)

・テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。(音声およびQ&A いずれでも可)

※オンライン参加の場合は、随時、Q&A 機能を使っての質問を受け付けます。

※時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学関係・出席者

前田裕学長、大津留智恵子副学長、岡照二学長補佐、永富真梨助教(社会学部)、

山田剛史教授(教育推進部)、松並久典総合企画室長、植田光雄学長室次長、依藤康正広報課長 ほか

以上

【次回のメディア懇談会(第145回)について】

2023年1月下旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

日本の男らしさは黒人音楽によって構築された！？

～90年代のサブカルチャーマガジンにおける言説を手がかりに～

社会学部 助教 永富真梨

【概要】

2020年6月7日放送回のNHK『これでわかった！世界のいま』で、ブラック・ライブズ・マター運動を伝えるアニメーションが、黒人のステレオタイプを助長するとして批判されたことは記憶に新しい。日本を拠点に活動するアメリカ研究者を中心に署名活動が行われ、マス・メディアの黒人に関する表現の改善が急務であることが認識された。しかし、本番組で問題視された黒人像が、ヒップホップのラッパーやブルースのギタリストを想起させ、音楽と関わる表象であったことはあまり注目されていない。黒人音楽が、日本でも長く愛好されていることを鑑みれば、これらの黒人像は、黒人への差別を助長するにも関わらず、日本人の黒人に対する無知よりも、日本人の黒人音楽、もしくは黒人への愛着と、それに伴って創造されたある種の「知」によって構築されたと考えることもできる。なぜ日本において現在でも黒人がステレオタイプ化されて表現されるのか、日本における黒人音楽の愛好の歴史を手がかりに考察する。

本発表では、「サブカルチャーマガジンの先駆け」としても知られる『スタジオボイス』の1991年10月号を事例として取り上げる。本号では、日本のポピュラー音楽文化に現在でも影響力を持つ「サブカルチャーエリート」とも称することのできる批評家や文筆家によって、黒人音楽への愛好が特徴的に表現されている。「黒人的。」と題された本号の特集の黒人音楽にまつわる語りと表象を分析すると、黒人音楽が黒人男性の身体に宿り、その身体とその身体から創出されると考えられた黒人音楽が、日本人男性の男らしさを定義するための文化装置として利用されたことが理解できる。黒人音楽を通して日本へ越境した黒人の身体が、日本人男性の「男らしさ」の構築のために利用されたために、日本人の「他者」として表現される黒人像が批判されずに温存され、黒人女性が不在で、日本人女性が洋楽を公に語る事が難しい男性優位な日本のポピュラー音楽文化が補強されたと論じる。

【プロフィール】

1979年京都市生まれ。関西大学社会学部メディア専攻助教。現在の専門は、ポピュラー音楽研究、アメリカ文化越境史。2001年同志社大学文学部社会学科新聞学専攻卒、歌手としての活動を経て、2005年米国テネシー州ナッシュビルの音楽出版社に入社。2013年同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士前期課程修了、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程在学中の2017年から2018年にフルブライト奨学金大学院研究プログラムにて中部テネシー州立大学歴史学部にて在外研究、2019年同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程修了(博士:アメリカ研究)。2019～2020年大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター特別研究員、2020～2022年摂南大学外国語学部講師を経て、現職。

以上